対応の重要性などについて理解すること。

(ｲ) 様々な自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について，その情報を収集し，読み取り，まとめる地理的技能を身に付けること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ｱ) 地域性を踏まえた防災について，自然及び社会的条件との関わり，地域の共通点や差異，持続可能な地域づくりなどに着目して，主題を設定し，自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し，表現すること。

(2) 生活圏の調査と地域の展望

空間的相互依存作用や地域などに着目して，課題を探究する活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識を身に付けること。

(ｱ) 生活圏の調査を基に，地理的な課題の解決に向けた取組や探究する手法などについて理解すること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ｱ) 生活圏の地理的な課題について，生活圏内や生活圏外との結び付き，地域の成り立ちや変容，持続可能な地域づくりなどに着目して，主題を設定し，課題解決に求められる取組などを多面的・多角的に考察，構想し，表現すること。

3　内容の取扱い

(1) 内容の全体にわたって，次の事項に配慮するものとする。

ア　中学校社会科との関連を図るとともに，１の目標に即して基本的な事柄を基に指導内容を構成すること。

イ　地図の読図や作図，衛星画像や空中写真，景観写真の読み取りなど地理的技能を身に付けることができるよう系統性に留意して計画的に指導すること。その際，教科用図書「地図」を十分に活用するとともに，地図や統計などの地理情報の収集・分析には，地理情報システムや情報通信ネットワークなどの活用を工夫すること。

ウ　地図の読図や作図などを主とした作業的で具体的な体験を伴う学習を取り入れるとともに，各項目を関連付けて地理的技能が身に付くよう工夫すること。また，地図を有効に活用して事象を説明したり，自分の解釈を加えて論述したり，討論したりするなどの活動を充実させること。

エ　学習過程では取り扱う内容の歴史的背景を踏まえることとし，政治的，経済的，生物的，地学的な事象なども必要に応じて扱うことができるが，

それらは空間的な傾向性や諸地域の特色を理解するのに必要な程度とすること。

オ　調査の実施や諸資料の収集に当たっては，専門家や関係諸機関などと円滑に連携・協働するなどして，社会との関わりを意識した活動を重視すること。

カ　各項目の内容に応じて日本を含めて扱うとともに，日本と比較し関連付けて考察するようにすること。

(2) 内容の取扱いに当たっては，次の事項に配慮するものとする。

ア　内容のＡについては，次のとおり取り扱うものとすること。

(ｱ) (1)については，次のとおり取り扱うこと。

「現代世界の地域構成を示した様々な地図の読図」については，様々な地図の読図によって現代世界を地理的な視点から概観するとともに，球面上の世界の捉え方にも習熟するよう工夫すること。「日本の位置と領域」については，世界的視野から日本の位置を捉えるとともに，日本の領域をめぐる問題にも触れること。また，我が国の海洋国家としての特色と海洋の果たす役割を取り上げるとともに，竹島や北方領土が我が国の固有の領土であることなど，我が国の領域をめぐる問題も取り上げるようにすること。その際，尖閣諸島については我が国の固有の領土であり，領土問題は存在しないことも扱うこと。また，「国内や国家間の結び付き」については，国内の物流や人の往来，それを支える陸運や海運などの現状や動向，世界の国家群，貿易，交通・通信，観光の現状や動向に関する諸事象を，様々な主題図などを基に取り上げ，地図や地理情報システムの適切な活用の仕方が身に付くよう工夫すること。

「日常生活の中で見られる様々な地図」については，観察や調査，統計，画像，文献などの地理情報の収集，選択，処理，諸資料の地理情報化や地図化などの作業的で具体的な体験を伴う学習を取り入れるよう工夫すること。また，今後の学習全体を通じて地理的技能を活用する端緒となるよう，地図や地理情報システムに関する基礎的・基本的な知識や技能を習得するとともに，地図や地理情報システムが日常生活の様々な場面で持続可能な社会づくりのために果たしている役割やその有用性に気付くことができるよう工夫すること。

イ　内容のＢについては，次のとおり取り扱うものとすること。

(ｱ) (1)については，次のとおり取り扱うこと。

「世界の人々の特色ある生活文化」については，「地理的環境から